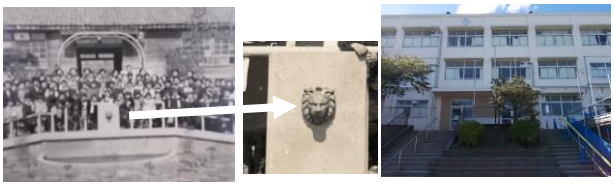
釜小だより

2023 年 8月31日
横浜市立釜利谷小学校
9月号
学校ホームページアドレス http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariya/



たいせつ

校長　安達　修久

立秋が過ぎ8月下旬に近づくと、ツクツクボウシが鳴き始めて「夏休みがもうすぐ終わってしまうな」と例年通りの気分になりました。ただ、いつもと異なって感じられたのは、やはり暑さでした。年を追うごとに、夏がどんどん暑くなってきているように感じますが、特に今年の暑さは格別でした。これが落ち着きを見せない中、学校を再開するのは心配なところです。子どもたちの健康には十分配慮していきたいと思います。

夏休み中、地域の祭礼や盆踊りの場にお邪魔しました。コロナ禍を経て数年ぶりの開催ということで、参加する子どもたちのうれしそうで元気な姿に会うことができ、大変喜ばしいことでした。地域の方々ともお会いして、お話する機会がありました。今年度150周年ということで、特に卒業生の方々は通っていた当時の本校の様子を、詳しく語ってくださいました。また、昔の釜利谷のまちの様子や、伝え聞いてきたというまちの歴史についても、お話をうかがう場面がありました。戦時中防空壕として掘られた場所を、今は倉庫として活用していること。釜利谷周辺が、江戸時代から特別な地域となっていたこと。本校一棟校舎前の階段のところに、ライオンの口から水が出る噴水池があったこと。本校にプールがいち早くつくられたこと。現在あるものの由来についてお聞きするのも楽しく、今とは違う様子については、その当時を想像する楽しさもありました。

その中で感じられたのは、お話しくださった皆様がこの釜利谷の地域を、そして釜利谷小学校を大切に思っている、ということでした。かつての様子や思い出を語るとき、そこには懐かしむ気持ちとともに地域や学校への誇りや愛があると思われました。そしてまた、祭礼などを復活した背景に「子どもたちのため」という言葉を一度ならずお聞きしました。何人もの地域の方々が、「にぎわうお祭りのような非日常の体験は、子どもたちにとって長く深く残る大切な、楽しい思い出となるだろう。自分たちもそうだった」とおっしゃっていました。地域、学校、子どもたちが大切にされているこの釜利谷で、本校に通う児童が明るく素直で元気良い理由がそこにあるように思われました。さらに、150年前に地域の学校をつくって子どもが通えるようにした、そのように古くから人々が居住し協力し合うコミュニティがつくられていた、ということもなかなかに貴重な場所だったということが想像されました。かつて本校に通っていた卒業生が懐かしさとともに思い出を語るように、今地域から大切にされている子どもたちが、いずれこのまちを、そして釜利谷小学校を、大切に思う大人になるのではないでしょうか。

ちなみに卒業といえば、今年度の卒業式は「第80回」となっています。できてから150年目なのに、卒業式の回数が半分ほどしかないのはなぜか。これは本校が創立してから、学校の名前やしくみが変わってきたことと関係があるようです。戦時中の1944年に学校名が「釜利谷国民学校」となって、その年の卒業式を第１回と数えると、今年度は80回目の卒業式になっています。

名前や場所が変わっても、そこには日常の学校生活があり、日々の活動が積みかさねられて、150年目を迎えていることには変わりありません。今までにない暑さが続いていますが、子どもたちの健康安全に気を付けて、釜利谷小学校の日々の活動を積み重ねていきたいと思います。